

# 「日本のゴーキヤン」を訪ねて

れ。東京美術学校日本画科を中退し、50歳で奄美大島に移住。紬(つむぎ)工場で染色工として働く傍ら、奄美の植物や動物をモチーフにした鮮やかな色彩と細かい描写の絵画制作に打ち込んだ。没後、TV番組などで一躍全国にその名を知られることになった。

初日に田中一村記念美術館で作品を鑑賞すると共に、一村の絵の世界を植物で再現した“一村の杜”を見学、翌日はマングローブ原生林や高知山展望台へ、最終日はバスで島内観光を行い、大島紬や黒糖焼酎の工場、一村居住跡などを訪れた後、奄美空港から鹿児島空港を経由し、帰豊した。

画風が生まれる環境を体感した参加者。「一村の絵が生まれた場所を見たかった。終(つい)の住み家や現地の自然、湿った空気を感じ、”日本

豊橋美博友の会30周年旅行  
奄美大島・田中一村美術館へ

柄に思いを馳（は）せると共に、色彩豊かな  
奄美の自然、現地の人との交流を満喫した。  
(写真はいずれも友の会提供) (田中博子)

豊橋市美術博物館友の会（宮田正人会長）は先ごろ、2泊3日の日程で奄美大島への3周年記念研修「東洋のガラパゴス・奄美大島 昭和の若冲・没後40年 田中一村記念美術館をたずねて」を実施。参加者40人が「日本」のゴーギヤン」と呼ばれる田中一村（190



田中一村記念美術館で説明を聞く  
豊橋市美術博物館友の会の会員ら



ボンバルディアの新型プロペラ機の前で記念撮影する

の「ゴーギャン」と言われる由縁も分かつた気がする」と須見テル子副会長。また、宮田会長は「現地の人たちの歓迎ぶりに感動した」とも。「皆さんのが郷土愛にあふれていることが印象的だつた。過去の不遇な時代もプラスに考え、前向きな人たちばかりだった」と話した。

田中一村の作品があらわれたポストカード



A photograph showing several tall palm trees standing on a sandy beach. The ocean is visible in the background under a clear sky.

## ばしゃ山村の朝



田中一村記念美術館

豊橋市美術博物館友の会創立  
30周年記念旅行に参加して

豊橋市美術博物館長 毛利伊知郎

両氏による講演・対談に  
き、5月23日から25日まで「  
美大島 田中一村記念美術  
を訪ねて」と銘うつた研修  
陸旅行が、40名ほどの会員  
参加して行われました。  
友の会はこれまで国内外  
さまざまな美術を探訪する  
修旅行を実施してきました  
今回は奄美大島で「昭和の

すか一ヶ月で中退。その後は千葉での生活を経て1958年に奄美大島に移住、亜熱帯の自然を主題とした幻想的な作品を残しました。

一村の作品は生前ほとんど注目されませんでした。しかし、没後の1984年にテレビの美術番組で紹介されて以来、数奇な生涯と他に例のない

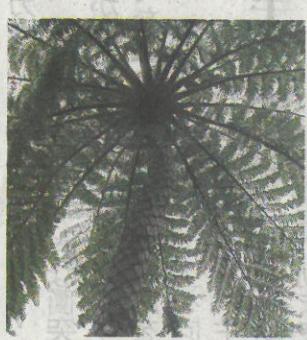
一村の聖地なのです。

「日本のゴーリキン」といはれる日本画家・田中一村（1908~77）ゆかりの地を訪ねる企画でした。栃木県出身の田中一村は東京美術学校（現・東京芸術大学）をわざとす。

A close-up photograph of a cluster of pandanus fruits, showing their characteristic segmented, yellowish-brown coloration. The fruits are surrounded by large, green, pointed leaves.



二十九



87



### 日桃 (サニナツ)